



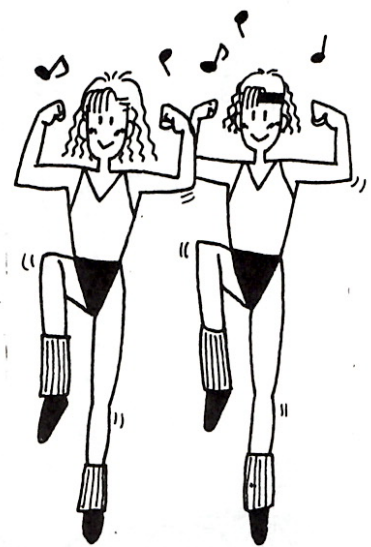
私は走る。完走あるのみ。これが私のフルマラソン最後となるであろう。もう走れないのである。喜びも悲しみも幾歳私のマラソン人生。

交通規制解除ランナーの皆様は信号は守って下さい。歩道のあるところは歩道を走って下さい。大きな声で叫んでいい。信号が変わった。青です。走って下さい。それでも走れない。哀れというも馬心かなり。

牧野先生は私より三時間、いは四時間も前にゴールを待ちました。待つて下さるとすれば、もう待たずに帰らねたであろうなあ、私は追いつく。遂にゴールした六時間二十六分十秒である。決勝審判員もあらず、完走証もなし。ただ給水の係りさんは私は終いものです。口を叩いておりました。給水の残りものの飲料水の大びんを一人一人に渡している。「有難う」と私は笑って来た。なんたる結果。おめでとう。私は満足。フルマラソンを完走したのだ。所が味ゆえぬ感動のドラマ、暗くなつた会場を後にする。ホッパ、スエファアドジョコ 私は次の目標がある。これはスエファ、また一からやり直した。私のマラソン人生は終らない。

追伸

後日一緒に参加した「山の会」の連中より電話があり私に「その後どうしましたか」と自分最高で初めてフルマラソン四時間五切ったこと。そして例のところで祝杯を上げたこと。結構、結構。牧野先生そして奥様も好タイムにて完走されたより。立派立派、敬意を表します。当日、六甲金山縦走タイムトライアルに参加できなかった方の結果や如何かと思ひ、ペンを止めます。



ランニングがもたらす小さな幸せ

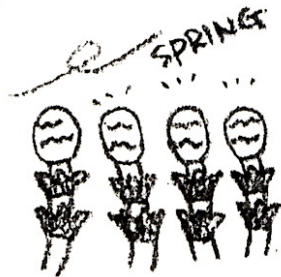
牧野源泉

昨年の忘年会の折り、会報紙の充実のため、会員が駅伝方式で話題を提供しようということになりました。今月が私の番です。

困ったなあ。こう忙しくては、陽春ながらのルンルン気分になることはもとより、語るネタすらトント思いつきません。しかし、折角の機会をパスしたくありません。さればと、4月2日土曜日、話題を求め、話題を掘り起こすために、ジョギングに出かけました。この小さな体験のなかに、それらしき、ささやかなものを見い出しました。その過程を再現すると……。

コースは、みなさんご存じの、青少年の森↓お菊山↓高倉林道↓市民の里↓種河神社です。早速に汗が出てきていい気持ち。だが、登りが急になるあたりから、しんどくなる一方。これから解放されるためには、注意を別に向けて、走っているという意識をそらすしかない。

ほとんど春真っただ中。先に来た時より山全体の色が違って映る。「何色？それは春色だ」所々に、春だけは仲良しになりたいタラの芽が、採り頃になっているのに気づく。昨年の今頃、会長の達さんか



ら、葉が人参のそれに似た野人参という草を覚えてもらい、これとタラの芽とユキノシタのてんぷらの、取り合わせは、美味だと聞いたことを思い出す。前二者はともかく、ユキノシタは見かけないが、どこにあるのだろう。庭師さんにも聞くか。

そうこうするうちに、木立の中の道に入る。途中、大きな山鳥(雉の仲間)とその羽音にびっくりというハプニングにも遭遇したが、小径を上下して駆けて行き、お菊山の山頂に着く。ここで足を止め、視界が開けた方向に目をやると、新空港への連絡橋が遙か向こうにかすんで見える。汗がドット吹き出るのを感じながら、開港直前にいま一度眺めに来ようなどと、当てにもならないことを思う。

後はラクチン、ラクチン。いま迎ってきた道程を頭の中で反芻しながら、どんどん下る。そう、この気分、この感覚。このうえないランニングの効用に浸りながら、市民の里まで降りてくる。ここでタラの木が群生する、半ば公然の秘密の場所に立ち寄って収穫を考えた。が、これは止めて、最初にその場所を見つけた石橋さんに楽しみを残しておくことにした。感覚が残っているうちに、家に帰って原稿を仕上げることを優先させたまでのことである。

多分に独りよがりでしょうが、罪のない小さな幸せに浸れることは、ランニングの効用の一つだと改めて思いました。

お知らせ

一、例会日

四月二十日 午前九時

新島種河神社前広場

一、コース

比呂と相談して決める

二、備考

イ、五月例会日 八日、二二日

集合時間場所 ともと同じ

ロ、94年チャレンジウルトラランニング大会

十五期(二七キロ)四月二十三日(土)

参加の皆様御健闘を祈ります。

